

- 開催日時：2019年（令和元年）8月21日（水）午前10時～午前12時
- 開催場所：市役所5階第1会議室
- 出席委員：伊藤裕夫委員長、山崎稔恵委員、奥野花代子委員
- 欠席委員：富岡幸一郎副委員長
- 事務局：文化スポーツ課 阿万野課長、土屋係長、鬼原主任、浅川主事
- 会議の公開・非公開：公開
- 傍聴者数：0名
- 議題：
 - 1 平成30年度事業に関する評価の対象、方法について
 - 2 令和元年度事業について
 - 3 その他
- 資料：【事前送付資料】
 - 資料1 平成30年度事業に関する評価報告書（案）※委員の意見まとめ（案）まで記入のもの【当日配付資料】
 - 次第
 - 名簿
 - 資料2 令和元年度（平成30年度対象）逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書（案）（抜粋）
 - 参考資料 逗子市文化振興基本計画 個別計画進行管理表
- 議事録作成：文化スポーツ課 鬼原 令和元年8月22日作成

■内容

1 開 会

定数確認
資料の確認

2 議 事

（1）平成30年度事業に関する評価について

〈委員長〉

議題1「平成30年度事業に関する評価について」、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉

資料1をご覧いただきたい。

評価報告書全体の構成について。趣旨、調査・評価の対象と方法、総括、評価シート、参考資料、からなる。まず、評価シートについてご審議いただき、その後に趣旨と総括、その他についてご審議いただく。

評価シートについて。第1回会議で様式を審議し、ご指摘いただいた「財政対策プログラ

ムによる影響」の欄を追加することで決定した。所管課による自己評価を記入後、委員の皆さんから評価に関する意見をいただいた。「委員会の評価」欄には、意見そのままを写したものと、まとめ（案）の両方が記載してある。

委員の皆さんにお願いしたいのは、まとめ（案）の内容について、この内容でよいか、加筆、修正等について審議いただきたい。

審議は6つの「施策の柱」毎に進めていく。

〈事務局〉

（資料1「（1）地域文化の担い手の育成」自己評価と見直すべき点（一部）及び委員会評価まとめ（案）について読み上げ。）

〈委員長〉

委員の皆様からのご意見を願います。

〈奥野委員〉

委員会評価まとめ（案）の最後の行「向上を図るべきである。」という言い方は、委員会の意見としては強すぎる表現だと思う。「向上を図ることが重要である。」で良いのではないか。

〈山崎委員〉

委員会の主張をきちんとすることも大事なので、それを踏まえて、表現を修正するのが良い。

〈委員長〉

上から5行目「負担金が休止された～」からの文章が若干長い。上から8～9行目「～鑑賞行動への欲求の高さを窺わせるもので、～」は、「窺わせる」と切ってしまうもよいと思う。その後の「活動のあり方や～思われるが」は文化祭のことだと思うが、ここまで言う必要はあるかどうか。この部分は山崎委員の意見であるが、いかがか。

〈山崎委員〉

文化祭については、アマチュア・市民の活動の重要さというものをきちんと認識しておく必要があることと、その一方で質や取組み方法等については一考を要するのではないか、という考えがあって、このような表現にした。

〈委員長〉

全国各地の文化祭の抱える課題として、ともするとアマチュアの内輪の満足の同好会のようにになってしまうことがある。そのような課題に触れるのは良いとも思うが、文章としてはどうしても長くなってしまうので、今回は無くても良いのではないか。

〈山崎委員〉

「活動のあり方や～思われるが」までを削除してはどうか。

〈委員長〉

財政面での支援もしてほしい、という文章全体のニュアンスは無くならないので良いと思う。

〈事務局〉

市としても、文化祭を実施する逗子市文化協会に対しては、内向きの活動にならないように常々話をしている。そうした中、体験学習施設スマイルでの子どもを対象にした文化

教室を開催して、その参加者が文化祭で発表する等、文化協会と外とのつながりはできつつあり、内部の仕組みも変えようとしているようだ。

<委員長>

「活動のあり方や～思われるが」までを削除し、最後を「向上を図ることが重要である。」と修正することでよろしいか。

<全員>

(異議なし)

<事務局>

(資料1「(2) 市民文化活動の活性化」自己評価と見直すべき点(一部)及び委員会評価まとめ(案)について読み上げ。)

<委員長>

委員の皆様からのご意見を願います。

<奥野委員>

最後の行「～の見直しも検討すべきである。」についても、(1)と同様に、もう少し柔らかい表現の方が良い。

<委員長>

文化プラザホール(以下「ホール」という。)の「舞台技術体験講座」は苦戦しているが、このような講座は一般の方は若干近寄りたいたいものがある。ホールが開催する舞台技術に関する体験講座を通して、一般の利用者もより深い知識を得られるという事例は全国的にも見られるが、相当準備をしていたり、かなり充実した内容であったりすることが多い。

<山崎委員>

最後から2行目の「広報の仕方や対象者」のところだが、広報を仕掛ける対象者、という意味にも受け取れる。ここでの意味は、企画の対象者、ということだと思う。

<委員長>

この企画自体についてはとても良い内容だが、もっと試行錯誤をする必要がある。舞台技術等に興味を持つのは、意外と中・高校生の方が多い。

奥野委員の意見の「市民企画事業に対して負担金の休止等が課題であり」について、市民企画事業自体はホールの事業であるので、負担金等の支出は無いと思うが、意見をした経緯を聞きたい。

<奥野委員>

市民が企画する事業に対して何らかの金銭的補助をしていたのが無くなったのかと思い、このような意見をした。

<事務局>

市民企画事業に対する市からの負担金というのは以前から設けていない。負担金は逗子アートフェスティバルに出されていたが、その中の市民企画については、金銭的負担は企画者自身が持ち、実行委員会側は広報支援等のみを行っている。

ホールが行う市民企画事業については、件数が年間数件と少なくなっているが、ホールの支援内容としては、会場の提供(会場費の減免等)となっている。今後は、企画の内容につ

いてもアドバイスする等様々な支援をするように、市としてホールには求めている。

<委員長>

最後の1行については「広報のあり方や対象者の見直しも検討が求められている。」とすることでよろしいか。

<全員>

(異議なし)

<事務局>

(資料1「(3)文化芸術に接する機会の拡充」自己評価と見直すべき点(一部)及び委員会評価まとめ(案)について読み上げ。)

<委員長>

委員の皆様からのご意見を願います。委員会の評価が分かれているがその部分についても願います。

自己評価の最後の行にある「若い方」とは、何歳くらいを指すのか。全国的に地域のホールでは、大学生、20代前半に弱いということがある。横浜のあるホールでは「U25」と称して、25歳以下を対象に、スタジオ等も含めたホールの利用キャンペーンを行っているそう。単に若い方といっても、そういった世代に対しては効果を上げているとは考えにくいので気になった。

<山崎委員>

委員会評価まとめ(案)下から3行目「福祉施設等への活動を再開すべきである。」について、これまでは行っていたが現在は休止している、ということによいか。

<事務局>

29年度までは、特養や介護施設、子育て支援センターへのアウトリーチを行っていたが、30年度は財政対策プログラムの影響で指定管理料が減額されたことに伴い、対象を小、中学校のみに絞ったと報告を受けている。令和元年度については、福祉施設に対してもアウトリーチを行うように調整をしているとのことだ。

<奥野委員>

下から3行目「福祉施設等への活動を再開すべきである。」ではなく「再開することが望まれる。」にしてはどうか。

<委員長>

「福祉施設等への活動の継続が望まれる。」としたい。正統派クラシック公演については、地域の中規模ホールでは苦戦しているところが多い。ホールでは以前フルオーケストラの公演をやっていて、この規模ホールとしては全国的にも珍しかったが、費用の問題等もあっても現在では行われていないようだ。現在は、規模が小さめの室内楽が多い。ただ、日本では室内楽はどちらかというと通好みで人気あまりないようだ。

「正統派クラシック公演」という言葉はどこが使い始めたのか。指定管理者か。

<事務局>

指定管理者である。担当者に確認したところ、いわゆる従来の形式(室内楽～オーケストラ)で、古典を演奏するというものを「正統派クラシック公演」と呼んでいるようだ。

〈奥野委員〉

「正統派」という言葉が果たして必要か。ホールとして重要な事業が「正統派クラシック」という考え方なのか。

〈委員長〉

誤解を招かないように、正統派、という言葉を外すか、指定管理者が言うところの「正統派クラシック」という表現とするか。自己評価には、市民が求めているものと、ホールが考えるもののギャップ、というところももう少し詳しく聞きたいところである。

〈奥野委員〉

横須賀などでは、ジャズコンサートなどは大きな集客がある。ホールにとってクラシックはそれほど重要なのか。

〈事務局〉

クラシック以外のジャンルでは、逗子でもジャズは人気もある。クラシック以外のジャンルは、チケット売上も好調のようである。

〈委員長〉

言葉として「正統派」を入れるか、普通にクラシックと表現するのがよいか。

〈奥野委員〉

広くクラシック公演としてはどうか。

〈委員長〉

委員会の評価としては、多数は a であるが、自己評価は b であるので、いかがか。

体験・参加型の事業については評価できる。自分の評価はどちらかということ b に近い。

〈山崎委員〉

ホールに来館できない方へのアウトリーチができなかったことは分かるが、逆に、ホールに来ていただくような取組みはあったのか。何らかの働きかけはしたのか。

〈事務局〉

アウトリーチの後に、参加者がホールに来場したという事例はあるが、障がいのある方にホールに来ていただけるような取組みというものはない。

〈委員長〉

「文化芸術に触れる機会の少ない人へのアプローチ」については目標を達成したとは言えないが、アウトリーチについて新しいメニューを取り入れたり、ホールオープンデーにおいて普段ホールを利用されない方を取りこむようにしたりしているので、そういう点も評価したい。委員会の評価として a と b のどちらが適切か、a でよろしいか。

〈全員〉

(異議なし)

〈山崎委員〉

a の評価にした上で、福祉施設へのアクションはアウトリーチだけが方法ではないので、ホールに来ていただけるようにする取組みについて、委員会評価まとめ(案)のなかで言及してもらいたい。

〈委員長〉

委員会評価まとめ(案)について上から 3～4 行目「参加者に多様な文化芸術活動に接する機会と場を提供できた。」の後に、上から 7～8 行目「本計画の目標に「ホールに来館できない方へも文化・芸術を広めていく」ことを掲げていることから、」の部分を移動させる。また、下から 3 行目「福祉施設等に対する活動の継続が望まれる。」と修正する。

<事務局>

(資料1「(4)文化資源の活用による地域づくり」自己評価と見直すべき点(一部)及び委員会評価まとめ(案)について読み上げ。)

<委員長>

委員の皆様からのご意見を願います。委員会の評価が分かれているがその部分についても願います。

私の評価はbに修正する。文化協会の子ども文化芸術教室の受託について、こういう活動に動き出していることに、変化の表れとしてプラスに評価したい。

評価については、上から3行目「逗子アートフェスティバルにおける「逗子アートネットワーク」の設立と活動」の後ろに「や、逗子市文化協会の子ども文化芸術教室の受託等」を入れる、としたい。評価はbとする。よろしいか。

<奥野委員、山崎委員>

(異議なし)

<事務局>

(資料1「(5)文化情報の収集と活用」自己評価と見直すべき点(一部)及び委員会評価まとめ(案)について読み上げ。)

<委員長>

委員の皆様からのご意見を願います。委員会の評価が分かれているがその部分についても願います。

「(仮称)逗子アーカイブス」について、逗子フォト事業の連動に伴う課題として何が挙げられるか。

<事務局>

逗子フォト事業は写真資料だけであるが、市内には写真以外の史料も多く残っており、その整理保管等について検討段階に至っていない。

<山崎委員>

そのような課題が解決されないから、いつまでも(仮称)が取れないということだと思う。連動で問題となりそうなことは何かがあるか。

<事務局>

予算的な部分が大きいと思う。

<委員長>

逗子フォト事業の所管課はどこか。

<事務局>

企画課である。企画課では、史料の保存というより活用の意向が強い。

<山崎委員>

そうであれば、行政内での横断的な活動が課題になってくる。行政の施策で「(仮題)」がずっとついたままであるのは適切とは言えない。

<委員長>

逗子では、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた動きはあるか。

<事務局>

スペインセーリングチームがリビエラを拠点に活動していることから、逗子市はスペインのホストタウンになっている。先日8月12日（月祝）には、選手との交流会も開催した。ホールのアウトリーチ活動になっている。550名ほどの方が参加した。

<委員長>

委員会評価まとめ（案）については修正無し、評価はbとしてよろしいか。

<全員>

（異議なし）

<事務局>

（資料1「(6)文化振興のための環境づくり」自己評価と見直すべき点（一部）及び委員会評価まとめ（案）について読み上げ。）

<委員長>

委員の皆様からのご意見を願います。

中長期改修計画は滞っているか。

<事務局>

計画通りには執行できていないが、全庁的に整備計画を見直すということになっていて、令和元年度に躯体調査を行い、新たな中長期改修計画を策定することを始めており、それに基づき予算化を図っていく。

<委員長>

改修には2つあり、1つは不具合の改修、1つはサービス向上のための改修である。前者は必ずやらねばならず、後者は多少の延長もあり、ということになる。中期改修計画の中で優先順位をきちんと設けて進めていくのが良い。

委員会評価まとめ（案）については、修正無しでよろしいか。

<全員>

（異議なし）

<委員長>

事務局は修正意見をまとめ（案）に反映させてください。

続けて、評価報告書全体について、事務局から説明をお願いする。

<事務局>

評価シート以外について説明する。

前半に趣旨、評価の対象と方法、総括となっている。後半は資料として、ホールの自主文化事業の一覧をつけている。

皆様には趣旨と総括についてご審議いただく。

趣旨について、前段は29年度と同じなので、変更点のみ読み上げる。（下から9行について読み上げ）

調査・評価の対象と方法について、変更点のみ読み上げる。（下から7行について読み上げ）

総括について、委員長から総括のポイントを2点挙げていただいた。それに基づいて（案）を作成している。（全文読み上げ）

<委員長>

総括のポイントについて2点を挙げさせていただいた。ホールの自主文化事業と、逗子アートフェスティバルが、文化振興基本計画の基本施策の多くを担っていることを高く評価するとともに、偏りについて問題提起するものである。また、緊急財政対策については本委員会からも意見を述べるべきであり、仕組みについても一度見直すことに言及すべきと考えた。

委員の皆様には、これ以外にも総括に入れるべきポイントがあると思うので、ご指摘ご意見をいただきたい。

〈奥野委員〉

この報告書はどこに配付されるのか。

〈事務局〉

10月末を目途に教育長に提出、報告した後、教育委員会に報告する。配付はしないが、ホール指定管理者には報告し、市ホームページに公開をする。

〈委員長〉

文化振興基本計画策定・推進会議にも報告をお願いする。

下から9行目「改正文化芸術基本法」が正しい。

〈山崎委員〉

上から7行目「市全体の文化振興を目指す行政の施策のあり方として適切か」とすると、「施策のあり方として」とすると、施策それ自体が揺らいでいるような印象を与える。「施策を踏まえて」というような表現が適切ではないか。

〈委員長〉

様々な文化施策がある中で、どうしてもイベント的なものに軸足が行っていることを検証した方が良いという意見がこの文章になっている。「施策のあり方として」を「施策の観点から」と変えてはどうか。また上から3行目の「～の実施に偏った」は「～の実施が中心となっている」とする方が良い。

庁内連携についても2回出てくるので、下から11行目から6行目までは削除し、その後に文章を補うならば、「(仮称)逗子アーカイブス」の(仮称)がいち早くとれるような取組みに移れることが望まれる旨の文章をいれるのがよい。

〈奥野委員〉

総括の末尾に、予算が減額されたなかで努力をされた市民やボランティア等の皆さんへの感謝の言葉のようなものは必要ないか。

〈委員長〉

市への報告であるので、感謝というのはニュアンスが異なるが、市民やボランティア等の皆さんが、今後も取組みを続けてもらえるような文章を入れるのがよい。

事務局は今後の予定について説明をお願いする。

〈事務局〉

評価シートの委員会意見まとめ(案)の修正と、総括(案)について修正を反映したものをまとめて、評価報告書(案)を委員の皆さんにメールで送付するので、ご確認いただき、更に修正等の意見がありましたらお知らせください。

それをまた反映させて、最終案とさせていただきます。

また、評価報告書の最終的な内容の確定は、委員長に一任とさせていただきたいが、よろしいか。

〈全員〉

(異議なし)

〈委員長〉

最終案は私が確認し、確定させていただきます。

(2) 令和元年度(平成30年度対象)逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について

〈委員長〉

議題2の「令和元年度(平成30年度対象)逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について」に入る。

資料2について、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉

資料2をご覧ください。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会では、平成20年度から、事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成しているが、補助執行である文化振興に係る文化スポーツ課所管の事業については一昨年度から報告するようになった。

資料2は、平成30年度の報告書(案)の一部抜粋である。このなかの「外部評価」については、本委員会で行うこととなっている。平成29年度分の際は、会議席上や報告書での意見を踏まえて案を作成し、メール等でご確認をいただいて内容を決定した。平成30年度分については、本日の会議で評価いただきたい。

評価を行う目標4つのうち、1番目の「逗子アートフェスティバルの参加企画数が30企画になっており、質の向上が図られている」については、先ほどご審議いただいた評価報告書(案)の中でいただいた意見を基に評価(案)をまとめさせていただいた。2番目の「文化プラザホールにおいて、質の高い自主文化事業が実施され、ホール自主事業の入場者アンケートの満足度が90パーセントを超えている」についても、意見を基に評価(案)をまとめさせていただいたのでご覧ください。

3番目「ホール貸館利用者アンケートによる満足度で「良い」が75パーセントになっている」について、自己評価を読み上げる。(自己評価読み上げ)こちらについては、参考資料の裏面の目標3を合わせてご確認ください。

〈委員長〉

満足度が高いことを評価した上で、障がい者対応等、きめ細かなサービスをしていることを評価してはどうか。認知症サポーター養成講座等を受けたこと等も評価点である。

〈事務局〉

評価(案)をまとめさせていただきますので、後日ご確認をお願いします。

4番目「文化プラザホールの入場者(観客)が年10万人以上になっている」について、

自己評価を読み上げる。(自己評価読み上げ) こちらも、参考資料の裏面の目標3を合わせてご確認ください。ホールから資料の訂正があって、87,728人が正しい。なぎさホールが55,614人、さぎなみホールが32,114人である。

〈委員長〉

入場者は2つのホールのみのカウントなのか。

〈事務局〉

その通りである。

〈委員長〉

2022年までに10万人という目標はかなり厳しいと思う。

〈山崎委員〉

ここには、近隣との連携や広報の成果みたいなことは入ってくるのか。もし入るのならば入れた方が良い。

〈委員長〉

あくまで入場者の目標に対する評価となるが、近隣施設との連携や広報への工夫等について更に図りたい旨を入れて、評価(案)をまとめてほしい。

〈事務局〉

後日、評価(案)をまとめて委員の皆様へ送付するのでよろしく願います。

(3) その他

〈委員長〉

本日の会議を通して、意見等があったら願います。

〈事務局〉

逗子アートフェスティバル2019の進捗についてご説明します。

逗子アートフェスティバル2019は10月17日(木)から27日(日)の日程で開催を決定している。

ZAF2019では、引き続き「逗子アートネットワーク」を中心に準備が進められている。

今年度も市からの負担金はゼロだが、クラウドファンディングは行わず、協賛や参加費等での資金調達が中心になる予定である。

JR 逗子駅前のスーパースズキヤ2階にある旧ニュー松屋跡地をメイン会場とし、昨年好評だった松澤有子さんのインスタレーションをはじめ、コンシェルジュによるインフォメーションセンターや交流スペースを設ける予定である。その他にも、今回3回目となる池子の森自然公園での「池子の森の音楽祭」、亀岡八幡宮での「MIRRORBOWER」等、全17企画を予定している。

〈委員長〉

以上をもって、すべての議事が終了した。

3 閉 会

以上